

突然ですが、「きんぎょが にげた」(五味太郎 作 福音館書店)という絵本をご存知ですか。

私にとって、この絵本は、娘との思い出が詰まった絵本です。

金魚鉢から逃げた金魚は、カーテンの模様の中に隠れたり、花の中に隠れたりします。次々と場面が変わるので、そこに溶け込んだ金魚と一緒に探すのがとても面白いのです。

さて、今月 14 日に、岩手県子育てサポーターなど、子育て支援関係者の皆さんを対象に、「気軽に集い、学び、交流する」というコンセプトのもと、平成 30 年度「いわて家庭教育・子育てサポートカフェ」が開催されました。講師は、絵本専門士 牧野幹(まきの みき)さんと、フルート奏者 牧野詩織(まきの しおり)さんでした。内容は、読み聞かせをめぐるトークや、フルート演奏などでした。参加者の皆さんからは、「子育て中のお母さん方にも、こんな癒しの時間をプレゼントしたい」「母娘の、ふんわり素敵な世界に惹き込まれ、幸せな楽しいひとときを過ごせた」「親子トークがよかった」などという感想をいただきました。

娘の詩織さんは、小さい頃、母親の幹さんが読み聞かせてくれていた「きんぎょが にげた」の絵本が、大のお気に入りだったそうです。気に入っていた要因を、幹さんは、「金魚を見つけるのが面白いから、娘はこの絵本がお気に入りだった」とずっと思っていたのですが、一方の詩織さんは、「瓶の中に入っていたカラフルなキャンディーに惹かれ、すごく食べたかったから気に入っていた」とのこと。大人になってから、ようやくお互いの感じ方にズレがあったということがわかり、「絵本って、面白いね～」と、親子で微笑みあっている姿が、とても印象的でした。そこで、思わず私も、高校生の娘に同じことを聞いてみたくなりました。

以下は、我が家の様子です。

私：「この本覚えてる？この本好きだったよね！」

娘：「・・・ん？どれ？う～ん・・・覚えてないな」

私が期待していた反応とは全く違い、ちょっと寂しくなりました。

しかし、めげずに続けました。

私：「そう言えば、私が本を読んでいる途中に、どんどん金魚を見つけちゃって……。次のページをめくりたがっていたよね～。あ、ほらほら！無理矢理めくろうとするから、本に変な折り目がついているでしょ！」

しばらく娘は、私の話をとても興味深そうに聞いていました。次第に、「それでそれで！」と、身を乗り出してきました。なにげないことなのですが、なんだかとても幸せな時間でした。

幹さんは、トークの中で、絵本を通して「幸せの記憶」は連鎖すると話していました。その出来事は、娘の詩織さんが友達の結婚祝いを贈った時に知ることになったそうです。贈り物は、「絵本」だったのですが、それは、母親の幹さんに読んでもらった大好きだった本を選んだものだったのです。絵本が、娘さんから他の誰かにつながっていくのだと知った時は、とてもうれしく思ったそうです。

最後に、「いわて家庭教育・子育てサポートカフェ」の参加者の方からこんな素敵な感想がありましたので、ご紹介します。

「子どもの記憶に残る体験に、大人がどう関わっているか。その体験は一瞬一瞬のものですが、いつの日か蘇ってくることがあるということが、次の子育て・孫育てにいかされていくと思うと、子育ては創造的ですね」

さて、絵本を通して、みなさんの中には、どんな「幸せの記憶」が、あるのでしょうか。みなさん一人ひとりの「幸せの記憶」が、どんどん広がっていくといいですね。【A】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索